

## シラバス

科目		講師		
1. 開講式・閉講式・オリエンテーション		おおいた林業アカデミー講師 等		
背景と目的	おおいた林業アカデミーで1年間学び、林業の担い手としての自覚を促す。			
内容	開講式、閉講式に参加し、研修生としての心構えを学ぶ。 オリエンテーションで、おおいた林業アカデミーの規則や研修の進め方を理解する。			
習得度等の到達目標	おおいた林業アカデミーの規則や研修の進め方を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
開講式	開講式に参加し、研修生としての心構えを促す。	3	0	3
閉講式	閉講式に参加し、研修修了生としての責務を考える。	3	0	3
オリエンテーション	おおいた林業アカデミーの概要について説明をうけ、内容を把握する。	3	0	3
計		9	0	9
習得度の評価の基準と方法	林業分野に就業する心構えができたか、規則や研修の進め方を理解したかを評価する。開講式及びオリエンテーションに参加したかで判断を行う。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
2. 森林・林業の基礎		おおいた林業アカデミー講師 等		
背景と目的	林業に就業するために必要な基礎知識や林業用語等を理解することを目的とする。			
内容	林業の作業内容やそれに伴う基礎知識、用語を学ぶ。			
習得度等の到達目標	林業の作業内容、基礎知識や用語を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
森林・林業の基礎知識	林業の作業内容や基礎知識、用語を学ぶ。 ①植林から皆伐までの林業サイクル ②植林や下刈等の林業作業の意義や方法 ③木材の利用や流通 ④森林の持つ公益的機能等	36	0	36
計		36	0	36
習得度の評価の基準と方法	森林・林業の基礎知識や林業用語に関するテストにより評価を行い、正答率7割以上を基準とする。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
3. 社会人基礎研修		おおいた林業アカデミー講師、外部講師 等		
背景と目的	就業するにあたって、社会人として必要なマナーやコミュニケーション能力等を身につけることを目的に研修を実施する。			
内容	社会人としてのマナーやコミュニケーション方法を外部講師から学ぶとともに、林業関係者や研修修了生からその重要性等を学ぶ。 また、確定申告等の税金の仕組みについて学ぶ。			
習得度等の到達目標	社会人として必要なマナーやコミュニケーション能力を向上させる。 確定申告の手法を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
マナー、コミュニケーション	マナーやコミュニケーション能力を座学によって学ぶ。	24	0	24
税の基礎知識	税金の基礎知識や確定申告方法を学ぶ。	3	0	3
計		27	0	27
習得度の評価の基準と方法	社会人として必要なマナーやコミュニケーション能力、税金に関する基礎知識が身についているか評価を行う。 マナー、コミュニケーション研修の取組状況及び税の基礎知識の研修受講態度で評価する。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
4. 林業労働安全		日本赤十字社大分県支部、外部講師 他		
背景と目的	林業は労働災害が発生した場合、重大な事故になることが多い。林業労働災害に関する知識を学ぶことで労働災害の未然防止や発生した場合の応急処置方法を習得する。			
内容	林業労働災害の現状や法的責任を学ぶとともに、危険予知活動等に係る講義及びVRを活用した林業労働災害の疑似体験を行うとともに、安全対策の先進事例等を学ぶことにより、危険予知に係る知識を習得する。 さらに、救急基礎講習により事故発生時の適切な対応を身につける。			
習得度等の到達目標	林業労働災害の現状や法的責任を理解するとともに、危険予知活動等による事故防止方法及び応急処置方法を習得する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
救急基礎講習	事故発生時の対応及び応急処置方法を学ぶ。	0	6	6
蜂アレルギー対策(アレルゲン検査)	蜂アレルギー検査を受診し、アレルギーの有無を確認する。	0	3	3
林業労働安全衛生一般	林業労働災害の現状や労働災害発生時の法的責任を学ぶとともに、VRを活用した疑似体験や、安全対策の先進事例等に関する研修を通じて労働安全対策の必要性を認識する。	30	0	30
危険予知活動及びリスクアセスメント	危険予知やリスクアセスメントを具体的事例で学ぶ。	6	0	6
計		36	9	45
習得度の評価の基準と方法	林業労働災害や危険予知に関するテストにより評価を行い、正答率7割以上を基準とする。 また、応急処置方法は救急基礎講習の受講証の取得の有無で評価を行う。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
5. 林業施策等概論		おおいた林業アカデミー講師、大分県職員		
背景と目的	林業の振興は、国、県、市町村において様々な林業施策等に基づいて実施されている。それらの方針を学ぶとともに、林業の規則や制度を学ぶことによって、林業振興の全体のイメージを把握することを目的とする。			
内容	林業白書や次世代の大分森林づくりビジョン等を参考に林業の推進方針や施策等を学ぶとともに森林施業を行うにあたって知っておくべき森林計画制度や保安林制度等を学ぶ。			
習得度等の到達目標	就業後に必要となる林業施策や制度等を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
林業白書・林業施策概論	林業白書を用いて林業の施策を学ぶ。	6	0	6
大分県の森林の状況、伐採届、森林経営計画	大分県の森林・林業の状況や森林計画制度について学ぶ。	6	0	6
森林整備の効率化、低コスト化	森林施業を効率的に行うポイントを学ぶ。	3	0	3
保安林と林地開発制度	保安林と林地開発制度について講義を行う。	3	0	3
計		18	0	18
習得度の評価の基準と方法	林業の施策や制度に関するテストにより評価を行い、正答率7割以上を基準とする。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
6. 林業への就業		おおいた林業アカデミー講師・外部講師 等		
背景と目的	林業分野の就業先を選ぶにあたって、一般的な労働条件や就業者の現状を把握する必要がある。林業の就業に関する情報を得て、就業先を決定することを目的とする。			
内容	講義によって林業事業体の仕事内容や就労条件等を学び、就業ガイダンスの参加や林業就業者との意見交換会により現場の状況をイメージする。			
習得度等の到達目標	講義や就業ガイダンス等により、就業を希望する林業事業体の候補を決める。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
林業事業体の給与体系、就労条件等の解説 森林の仕事ガイダンス	林業従事者の現状や林業事業体の就労条件について講義を行う。 就業ガイダンスに参加し、林業事業体より就業に関する情報を収集する。	15	0	15
就業者等との意見交換会 就業面談	林業就業者との意見交換会を実施し、就業に関する情報を収集する。 研修生と個別に面談を行い、就業希望先を決定する。	9	0	9
林業事業体の業務内容	林業事業体の仕事内容について講義を行う。	3	0	3
計		27	0	27
習得度の評価の基準と方法	就業情報の収集や、就業ガイダンスへの参加により、就業先の候補を一社以上選定しているかを評価基準とする。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
7. 森林調査		おおいた林業アカデミー講師・外部講師 等		
背景と目的	森林施業に必要な森林の現況を把握する森林調査手法を習得する。			
内容	森林基本図の見方や測量・測樹の基本的知識及び、適切な密度管理や選木方法を座学と実習により習得する。 また、ドローン等を活用した効率的な森林資源調査について学ぶとともに、資源情報を活用して森林施業を提案する「森林施業プランナー」の役割や業務内容を学ぶ。			
習得度等の到達目標	森林基本図の見方や測量・測樹の知識、密度管理や選木方法を習得する。 森林資源情報の効率的な取得・活用及び森林施業プランナーの業務について理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
森林基本図の見方及び測樹(プロット調査)現地実習	森林基本図の見方及び測樹の現地実習。	12	18	30
測量実習	測量技術の基本的知識の習得及び現地での測量実習。	6	12	18
森林資源調査実習	ドローン等の最新技術を活用した調査に係る基礎的知識の講義及び操作・情報解析実習。	6	18	24
密度管理及び選木研修	密度管理の考え方を学ぶとともに、選木の实習を行う。	0	6	6
森林施業プランナー	森林施業を提案する能力を有する森林施業プランナーから話しを聞き、業務をイメージする。	3	0	3
計		27	54	81
習得度の評価の基準と方法	森林基本図の見方や測樹、測量、密度管理、選木及び資源調査について、実習の取組状況を確認するとともに、理解度確認テストにより評価を行い、正答率7割以上を基準とする。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
8. 森林病害虫・獣害		外部講師		
背景と目的	森林の立木に対して害を与える害虫や木の病気が発生し、立木の成長を阻害することがある。また、近年、シカやイノシシ等による立木への獣害被害が多く発生している。これらの病虫獣害の実態を知るとともに、獣害に対する防止策を理解する。			
内容	基本的な病害虫や獣害の実態や防除方法等について学ぶとともに、林業被害の防除方法の基本であるシカネットの設置方法を習得する。			
習得度等の到達目標	基本的な病害虫や獣害の実態について理解する。獣害対策の基本としてシカネットの設置実習を行い、設置の方法・意義を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
基本的な病害虫及び獣害対策	病害虫や獣害に関する知識や実態を学ぶ。また、捕獲された害獣について利活用を学ぶ。	6	6	12
防獣ネット設置実習	シカネットの設置方法を実習で学ぶ。	0	12	12
計		6	18	24
習得度の評価の基準と方法	病害虫や獣害対策の基本的事項については、テストにより評価を行い、正答率7割以上を基準とする。また、実習においてシカネットの設置がスムーズにできるかを評価する。			
取得できる資格	なし			



## シラバス

科目		講師		
9. 森林施業体系		おおいた林業アカデミー講師・県職員 等		
背景と目的	循環型の人工林施業体系を知ることは、森林整備を進めるうえで効率的で有効な施業に繋がる。また、生物多様性など環境に配慮した森林施業を知ることで、林業の重要性への理解が深まる。森林整備を経済的に実施するために、造林補助金の概要や造林方法を知ることが必要である。			
内容	人工林施業体系を知り、作業現場で確認する。造林補助金制度について学ぶ。			
習得度等の到達目標	循環型の人工林施業体系を理解する。生物多様性など環境に配慮した施業を理解する。造林補助金制度について概要を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
人工林施業体系、作業現場の視察	循環型の人工林施業を中心に、多様な施業体系を学び、現場で確認を行う。	12	9	21
造林関係補助金の概要内容、造林作業の目的と方法	造林補助金の概要、造林作業の目的と方法を学ぶ。	3	0	3
計		15	9	24
習得度の評価の基準と方法	人工林施業体系や造林補助金制度についてのテストにより評価を行い、正答率7割以上を基準とする。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
10. 種苗、苗畑管理		おおいた林業アカデミー講師・外部講師 等		
背景と目的	国産材利用の拡大や木質バイオマス発電所の増加により森林の皆伐が進み、再造林も増加している。 再造林を実施するのに必要な苗木の生産について理解する。			
内容	実習を通じて、苗木の育苗やその管理技術を学ぶ。			
習得度等の到達目標	苗木の育苗やその管理技術を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
育苗と管理技術	苗木の育苗やその管理技術を実習で学ぶ。	0	3	3
採穂苗床実習	採穂や苗床管理の実習を行う。	0	6	6
計		0	9	9
習得度の評価の基準と方法	苗木の育苗やその管理方法等について、実習の取組状況により理解度を評価する。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
11. 造林技術		おおいた林業アカデミー講師・外部講師 等		
背景と目的	造林作業員の減少が進み、造林作業の効率化及び安全対策の徹底が課題となる中、効率的な造林技術について理解するとともに、安全な造林作業の方法と基礎知識を習得する。			
内容	コンテナ苗、低密度植栽や一貫作業システム等の効率的な造林技術を実践現場で学ぶとともに、植栽、下刈り、除伐等の安全な造林作業、刈払機の取り扱いを実習する。			
習得度等の到達目標	効率的な造林技術を理解するとともに、安全な造林作業と刈払機の基本操作を習得する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
森林土壌と適地適木	森林土壌と適地適木の考え方を教える。	3	0	3
安全な植栽と一貫作業システム等	安全な植栽作業についての実習。	0	6	6
	一貫作業システム等効率的な造林技術についての座学、実習	3	9	12
刈払機の構造と点検整備	刈払機の構造と点検整備の実習。	0	12	12
安全な刈払機操作	刈払機の基本かつ安全な操作方法についての実習。	0	18	18
安全な下刈り・除伐等	安全を考慮した下刈り、除伐の実習。	0	102	102
手工具の取扱及び整備実習	手工具の取扱及び整備実習。	0	3	3
計		6	150	156
習得度の評価の基準と方法	効率的な造林技術や安全な造林作業に関するテストにより評価を行い、正答率7割以上を基準とする。 また、植栽、刈払機の下刈等において安全作業を習得したか、実習の取組状況で評価する。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
12. 伐採技術		おおいた林業アカデミー講師・外部講師 等		
背景と目的	伐採を行う主力機械はチェーンソーである。チェーンソーの構造を理解し、その安全な操作技術を習得することは安全性及び生産性を向上させるために必要である。			
内容	チェーンソーの構造や点検整備方法を習得する。また、伐倒・造材を繰り返し実習することでチェーンソーの安全作業を身に付ける。			
習得度等の到達目標	チェーンソーの点検整備を適切に行い、スギ等の伐採を安全かつスムーズに行い得る技術の習得。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
チェーンソーの安全操作	安全なチェーンソーの操作を実習で学ぶ。	0	60	60
チェーンソーの構造と点検整備	チェーンソーの構造と点検整備方法(目立て等)を学ぶ。	0	18	18
スギ、ヒノキの安全な伐倒・造材	スギ、ヒノキの安全な伐倒、造材方法を学ぶ。	0	204	204
広葉樹、竹材等の安全な伐倒	広葉樹や竹材の安全な伐倒方法を学ぶ。	0	24	24
計		0	306	306
習得度の評価の基準と方法	チェーンソーの構造や点検整備、安全な伐倒に関するテストにより評価し、正答率7割以上を基準とする。 併せて、伐倒を安全かつスムーズに行う技術を習得したか、実習の取組状況により評価する。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
13. 作業道設計		おおいた林業アカデミー講師・外部講師 等		
背景と目的	木材生産において、林道や作業道の基盤整備は効率的な木材生産のために重要である。作業道について学び、効率的な木材生産に繋げる。			
内容	作業道開設のための、踏査、測量、設計や最新の路網設計支援ソフトを用いた演習により作業道の設計方法を学ぶ。			
習得度等の到達目標	効率的な作業道の設計方法を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
作業道開設の方法、踏査	作業道の踏査(土質、傾斜、排水等の確認)、測量、設計を学ぶ。	12	6	18
FRD研修	FRD(路網設計支援ソフト)を用いて、作業道の設計と現地確認を行う。	6	6	12
計		18	12	30
習得度の評価の基準と方法	作業道の意義や設計等が理解ができたか、演習における設計書や現地実習(踏査、測量)の取組状況で評価する。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
14. 木材の利用		おおいた林業アカデミー講師・外部講師 等		
背景と目的	素材生産に従事する者が、木材の性質を知り、川下の需要を意識した素材生産活動を行うことは重要であるため、実習により木材の流通・加工をイメージする。			
内容	木材の特性(構造や性質)を学ぶ。 製品としての木材の流通、加工を学ぶ。 マーケットインによる林業経営を学ぶため、製材所や住宅展示場などを訪問し、研修する。			
習得度等の到達目標	木材の特性、流通、加工を理解する。 製材品としての木材の利用を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
木材の構造及び性質	木材の構造や性質を学ぶ。	3	3	6
木材の流通、加工、用途開発等	木材の流通や加工(採材、製材規格等)、新しい利用方法を学ぶ。	6	3	9
製材所、バイオマス発電所、木材市場、住宅展示場、公共木造建築物視察	製材所等で木材の活用を見学を通して学ぶ。	0		
計		9	30	39
習得度の評価の基準と方法	木材の特性や流通加工等に関するテストにより評価を行い、正答率7割以上を基準とする。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
15. 技能習得		おおいた林業アカデミー講師・外部講師 等		
背景と目的	素材生産現場では高性能林業機械の普及が著しいため、その操作や作業システムにおける安全技術を学ぶ必要がある。 また、素材生産現場で必要とされるワイヤー差しやロープワークについて身につける。			
内容	ハーベスタを中心とした高性能林業機械の操作、管理及び作業システムについて、基礎的知識及び安全技術を習得する。 ワイヤー差しとロープワークの技術を身につける。			
習得度等の到達目標	高性能林業機械の作業システム及び安全技術を理解する。 ワイヤー差しとロープワークを習得する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
高性能林業機械の安全技術	ハーベスタを中心とした高性能林業機械の操作及び機能・構造、点検・整備、作業システムについて基礎的知識及び安全技術を学ぶ。	9	12	21
効率的な作業システム	高性能林業機械による作業システムの現地において、作業道開設や山土場選別等の観点を含め、効率性が追求されているか検証を行い、効率的な素材生産に関する知識を身につける。	0	12	12
ハーベスタシミュレータ操作実習	ハーベスタシミュレータを用いて、高性能林業機械の操作を体験する。	0	18	18
ワイヤーワーク・ロープワーク実習	ワイヤーワークとロープワークを実習で学ぶ。	0	12	12
計		9	54	63
習得度の評価の基準と方法	高性能林業機械の作業システムに関するテストにより評価を行い、正答率7割以上を基準とする。 ワイヤー差しとロープワークについては、実習の状況を確認し、スムーズな作業ができるか評価する。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
16. 資格取得		おおいた林業アカデミー講師・外部講師 等		
背景と目的	林業に従事するにあたっては、刈払機等の資格が必要であるため、基本的な資格を取得する。			
内容	各資格カリキュラムの講義や実習を受講する。			
習得度等の到達目標	各資格を取得する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
刈払機取扱作業安全衛生教育	刈払機に関する知識や操作技術の習得	0	6	6
伐木等の業務に係る特別教育	伐木作業、チェーンソーに関する知識や関係法令等の習得	9	9	18
小型移動式クレーン運転技能講習	小型移動式クレーンの知識や運転技能の習得	0	18	18
玉掛け技能講習	玉掛方法の技能習得	0	18	18
車両系建設機械運転技能講習	車両系建設機械に関する知識や走行技術等の習得	0	30	30
走行集材機械運転特別教育	走行集材機械に関する知識や走行技術等の習得	6	6	12
狩猟免許(ワナ猟)	ワナ猟に関する知識や猟具の取扱方法を習得	12	0	12
計		33	93	126
習得度の評価の基準と方法	刈払機取扱作業安全衛生教育、伐木等の業務に係る特別教育、小型移動式クレーン運転技能講習、玉掛け技能講習、車両系建設機械運転技能講習、狩猟免許(ワナ猟)の資格の有無により評価			
取得できる資格	刈払機取扱作業安全衛生教育修了証、伐木等の業務に係る特別教育修了証、小型移動式クレーン運転技能講習修了証、玉掛け技能講習修了証、車両系建設機械運転技能講習修了証、狩猟免許(ワナ猟)			



## シラバス

科目		講師		
17. 里山の活用		おおいた林業アカデミー講師・外部講師 等		
背景と目的	山村で生活するにあたって、里山等を活用する知識を持つことは重要である。そのため里山に生息する樹木や危険な動植物に関する知識を得ることを目的とする。			
内容	地形図を見ながら山歩きを行い、植生や危険な動植物の見分けかたを学ぶ。			
習得度等の到達目標	地形図の見方や樹木の判別、危険な動植物の見分け方を習得する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
山歩きの実践	地形図を見ながら、山歩きを実践する。	0	12	12
樹木の見分け方及び危険な動植物	樹木の見分け方や危険な動植物の見分け方の講義を行う。	9	0	9
計		9	12	21
習得度の評価の基準と方法	樹木の判別等の講師の質問に回答できたかで評価を行い、正答率7割以上を基準とする。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
18. 特用林産		おおいた林業アカデミー講師、外部講師 等		
背景と目的	山村で生活するにあたって、副収入にもなり得る特用林産物の有効活用学ぶ。 特に、大分県は乾しいたけ生産量が全国一位であり、当県林業の主要産物として、その生産の現状や生産技術を学ぶ。			
内容	当県の乾しいたけ生産の現状、生産技術等の理解。 その他特用林産物として、木炭の生産方法、山菜等の活用方法を学ぶ。			
習得度等の到達目標	当県の乾しいたけ生産の現状、生産技術等を理解する。 木炭の生産方法、山菜等の活用方法を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
乾しいたけ生産の現状、栽培技術(玉切り、駒打ち等)	乾しいたけ生産の現状と一連の技術を学ぶ。	3	9	12
特用林産物(炭、山菜等)の生産	特用林産物の種類(炭、山菜、竹材、薬草等)、生産方法や活用方法について学ぶ。	3	6	9
計		6	15	21
習得度の評価の基準と方法	特用林産物の生産や山の幸の活用方法に関するテストにより評価を行い、正答率7割以上を基準とする。			
取得できる資格	なし			

## シラバス

科目		講師		
19. インターンシップ		森林組合、林業事業体等		
背景と目的	森林組合や林業事業体の実際の就業状況や仕事内容を体験し、林業に就業する心構えを持つことを目的とする			
内容	森林組合や林業事業体で実際の林業の仕事を体験する。			
習得度等の到達目標	森林組合や林業事業体で実際の林業の仕事を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
各事業体における職場体験	各事業体での仕事の体験。	12	126	138
計		12	126	138
習得度の評価の基準と方法	各事業体での仕事体験の報告状況によって評価する			
取得できる資格	なし			